うまくいかないときの話

　さて今回は、アドバンス・ケア・プランニングがうまくいっていないと、どんなところで損をする可能性があるか、いくつか例を挙げてご説明するつもりでした。でもどうでしょう。いくら必要だからと言って、「将来、意思表示がうまくいかず、こんなになったら怖いでしょ？」などと半ば脅されて、渋々相談を始めるのって、違う気がするのです。私は生来ネガティブ思考のようでして、心配ばかりで結局何も行動しないということを繰り返しながら生きてきました。恥ずかしいことです。でもその分、「こうなったら嫌だな」という想像力に関しては、一日の長があると言えなくはない。しかし、アドバンス・ケア・プランニングについて、一人ひとり正解は違うものです。

　前回まで、あれだけ「アドバンス・ケア・プランニングに取り組むことは大事です」といったトーンで書いておきながら、話が違うじゃないかというご指摘は、ごもっともであります。けれど、先に起こるあらゆることを全部、今のうちに決めておく、なんてことできるわけがありません。だって未来のことですもの。わからないことを前提に「何も言わずにおくよりは、話し合って大体その辺りに着地できるようにしておく」、その程度のことであるにも関わらず、みんな一律に猫も杓子もやっておけというのはおかしい。

　そんなことをつらつら考えるにつけ、病院なり医者なりが、患者さんや家族の「ためを思って」あれこれ気を回してあげることは、あなたにとって常にありがたいことでしょうか？それは往々にして「ありがた迷惑」に陥っていないだろうかと自問自答するのです。あなたは「よくわからない」から、いろんなことをよく知っている病院の人のおススメが一番いいと思いますか？「まずは話し合いのテーブルにつけ」という前に、「そういう話し合いが、自分にも必要かもしれないな」と気が付くことのできる人を、ひとりでも増やすことの方が大事なのではないかと。思うのであります。前回もご紹介しましたが、2019年9月30日　市民教育公開講座（一般市民向け）において、アドバンス・ケア・プランニングをテーマに講演会とディスカッションを予定しています。ぜひご参加ください。